

体表解剖学研究会第2回全国研修会を迎えて

体表解剖学研究会第2回全国研修会

大会長 青野 正宏

(アオノ治療院)

去る3月11日に発生した東日本大震災で被災された皆様に心からお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

今年度は、本研究会のセミナーが開催されて第15回目の節目であると同時に、一般社団法人化して、公益性を持った団体としてスタート致しました。このような年に、第2回全国研修会の大会長に選出され、非常に光栄に思うと同時にその重責に身が引き締まる思いでいっぱいです。

私は、第7回の愛知会場セミナーから運営に関わらせて頂いています。当初、愛知会場のスタッフは、特に定期的な勉強会を行っていなかったのので、各自が昨年のビデオをもとに勉強し、セミナー当日、磯貝会長のデモンストレーションを確認していました。昨年と違うことをデモンストレーションで説明されると、スタッフは慌ててデモンストレーション終了後、モデルの体を触るためにベッドの周りへ集まっていたのがとても懐かしく思います。現在は、各地区で定期的に勉強会も行われ、また、デモンストレーションや触察の方法までディスカッションされるようになりました。そして、全国の会員数は、当時の3倍ほどになりました。ここまで大きくなると、ただの有志の集まりではなく立派な組織に成長したのだと感慨深く思います。

今回は「体表解剖学を（筋に対する）徒手療法（臨床）に生かすために」のテーマのもと、平成23年6月4日（土）・5日（日）の2日間にわたり、東京都大田区の東京工科大学で開催致します。

第1日目は、大会長による講演「治療効果を出せる徒手療法を求めて～体表解剖学から学んだこと～」で研修会をスタートさせて頂きます。そして、本研究会の相談役である中島猛先生をお迎えし、「徒手療法の体表解剖学的アプローチ」と題して、体表解剖学と臨床との接点を再考するのにふさわしい講義及び実習が行われます。研修会第2日目には、普段私たちが触って投影している筋や骨の位置が、本当に正しいのかということを確認するために、東芝メディカル様のご協力のもとに、エコー実習を取り入れました。また、今年度よりカリキュラムに含まれる、手部、足部および頸部の筋や骨の触察実習を各地区より、デモンストレーション及び実習を行って頂きます。これは、全国に散らばる会員の技術の統一に結び付く非常に重要な機会になると考えております。

全国の会員が集まりお互いに交流を深める貴重な機会でもあります。また、体表解剖学の普及の一環として、今年度より会員以外の参加もできるようになりました。本研修会に、一人でも多くの皆様に参加していただけますよう心よりお待ち申し上げます。